


SBR



SBR



Small Business Relationship

私たちは、小企業を活性化するエンジンとなります。

株式会社 SBR

平成23年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

2010年11月5日

1. 決算ハイライト

損益計算書	・・・	4
サービス別売上高構成	・・・	5
営業費用(売上原価+販管費)	・・・	6
損益計算書(四半期推移)	・・・	7
サービス別売上高構成(四半期推移)	・・・	8
営業生産性推移	・・・	9
営業費用(売上原価+販管費)四半期推移	・・・	10
従業員数推移	・・・	11
貸借対照表(資産の部)	・・・	12
貸借対照表(負債・純資産の部)	・・・	13
キャッシュ・フロー	・・・	14
損益計算書(期初予想比較)	・・・	15
平成23年3月期業績予想(通期)の修正	・・・	16
下期重点取組事項	・・・	17

2. 補足資料

業績及び経営指標の推移	・・・	19
平成23年3月期業績予想(通期)	・・・	20
サービス別売上高構成予想(通期)	・・・	21
経営方針:事業テーマ	・・・	22
経営方針:経営テーマ	・・・	23
株主構成	・・・	24



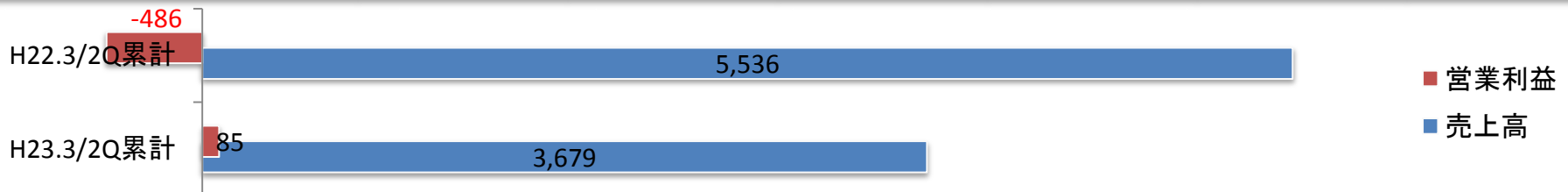
Small Business Relationship

私たちは、小企業を活性化するエンジンとなります。

平成23年3月期 第2四半期

決算ハイライト

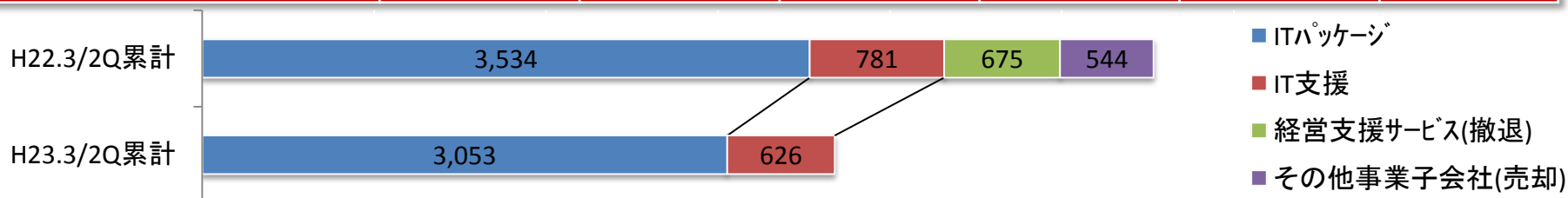
【単位:百万円】	H22.3 2Q累計	売上比	H23.3 2Q累計	売上比	対前期 増減率	対前期 差額
売上高	5,536	100.0%	3,679	100.0%	△33.5%	△1,856
売上原価	1,841	33.3%	763	20.8%	△58.5%	△1,077
売上総利益	3,694	66.7%	2,915	79.2%	△21.1%	△778
販管費	4,181	75.5%	2,830	76.9%	△32.3%	△1,351
営業利益(△損失)	△486	△8.8%	85	2.3%	—	+572
経常利益(△損失)	△460	△8.3%	102	2.8%	—	+562
四半期純利益(△純損失)	△872	△15.8%	221	6.0%	—	+1,093



損益計算書 コメント

- » 前期に販管費の大幅な圧縮を実施し、今期も継続して販管費の低減に努めたことにより、販管費が前期比32.3%減少した結果、営業利益は85百万円(前年同期は△486百万円)と黒字転換
- » 旧金融サービス事業の不良債権について、想定以上に回収が進捗したことにより、当該債権の回収に伴う貸倒引当金の戻入を実施し、特別利益を計上した結果、四半期純利益は、黒字転換するとともに、前期比で大幅黒字

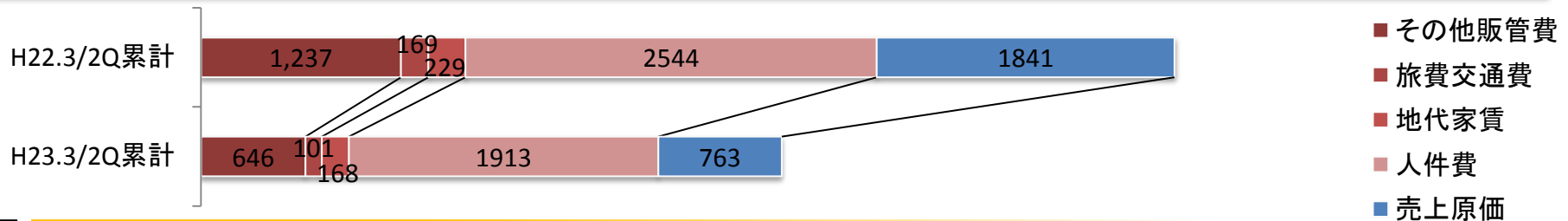
【単位:百万円】	H22.3 2Q累計	構成比	H23.3 2Q累計	構成比	対前期 増減率	対前期 差額
ITパッケージ	3,534	63.8%	3,053	83.0%	△13.6%	△480
IT支援	781	14.1%	626	17.0%	△19.9%	△155
継続サービス計	4,315	78.0%	3,679	100.0%	△14.7%	△635
経営支援サービス(撤退)	675	12.2%	—	—	—	△675
その他事業子会社(売却)	544	9.8%	—	—	—	△544
非継続サービス計	1,220	22.0%	—	—	—	△1,220
売上高	5,536	100.0%	3,679	100.0%	△33.5%	△1,856



サービス別売上高構成コメント

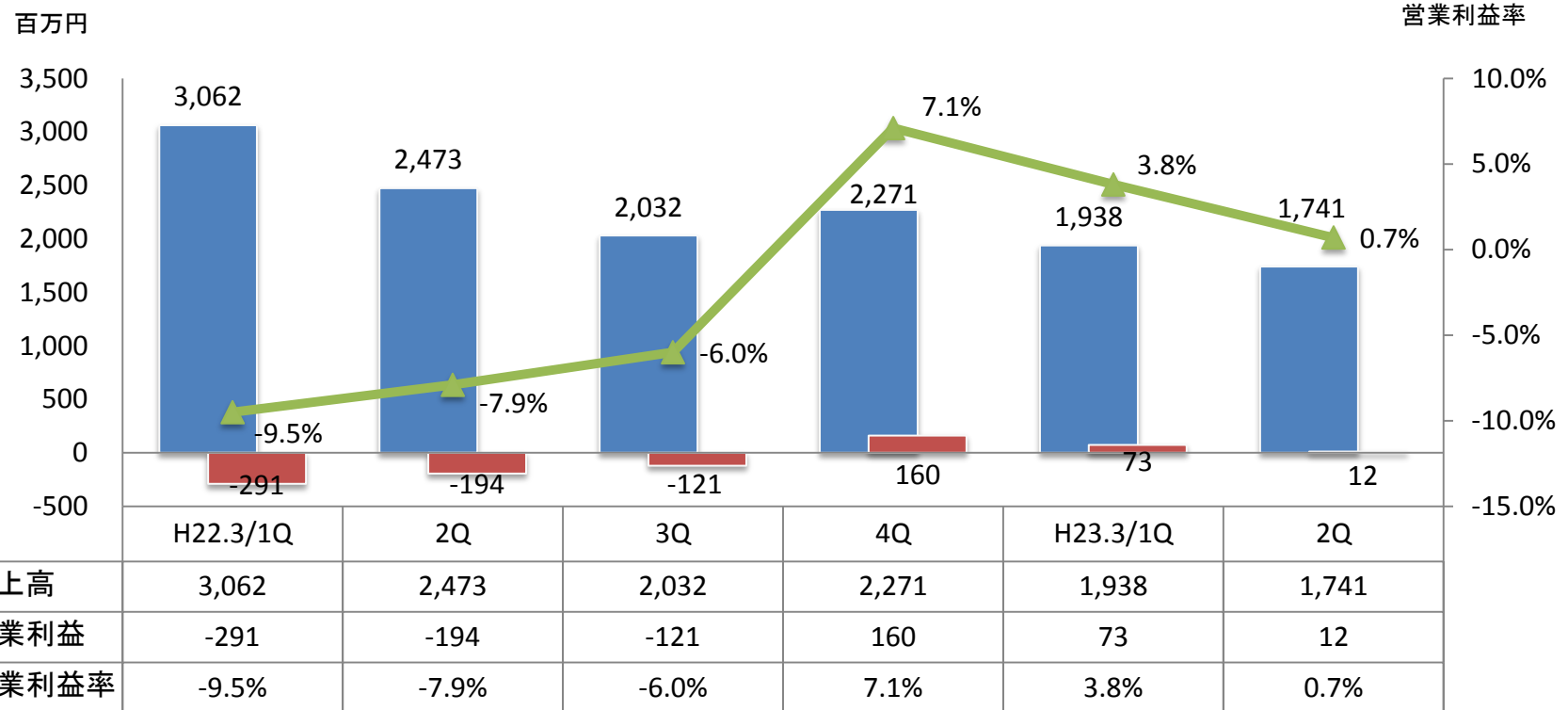
- » 前期において、戦略的に撤退した経営支援サービス及び売却したグループ子会社の売上高が減少
- » ITパッケージは、展開業種について採算性の高い業種への絞込みを行っていること、小企業の業況が依然として弱含んで推移していることから、**前期比13.6%減少**
- » IT支援は、収益性の観点から、より利益率の高い商材に絞込みを戦略的に実施したことにより、**前期比19.9%減少**

【単位:百万円】	H22.3 2Q累計	売上比	H23.3 2Q累計	売上比	対前期 増減率	対前期 差額
売上原価	1,841	33.3%	763	20.8%	△58.5%	△1,077
人件費	2,544	46.0%	1,913	52.0%	△24.8%	△631
地代家賃	229	4.1%	168	4.6%	△26.6%	△60
旅費交通費	169	3.1%	101	2.8%	△39.9%	△67
その他販管費	1,237	22.4%	646	17.6%	△47.8%	△591
販管費	4,181	75.5%	2,830	76.9%	△32.3%	△1,351
営業費用	6,022	108.8%	3,594	97.7%	△40.3%	△2,428



営業費用(売上原価+販管費)コメント

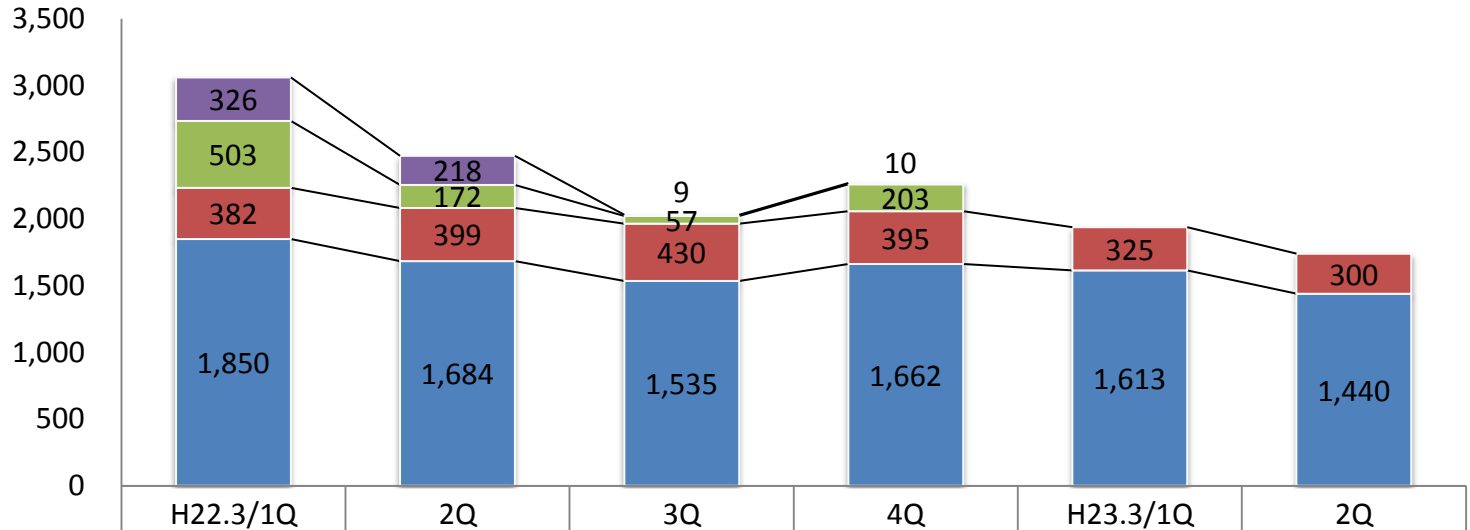
- » 前期に年間を通じて販管費の大幅な圧縮を実施したことに加え、当期も引続き組織規模の適正化及びローコスト・オペレーションの徹底を推進し、販管費を削減した結果、**営業費用は前期比40.3%減少**



損益計算書(四半期推移)コメント

第2四半期の売上高は、1,741百万円となり、第1四半期と比較して10.2%減少
 第2四半期の営業利益は、12百万円となり、第1四半期と比較して82.6%減少

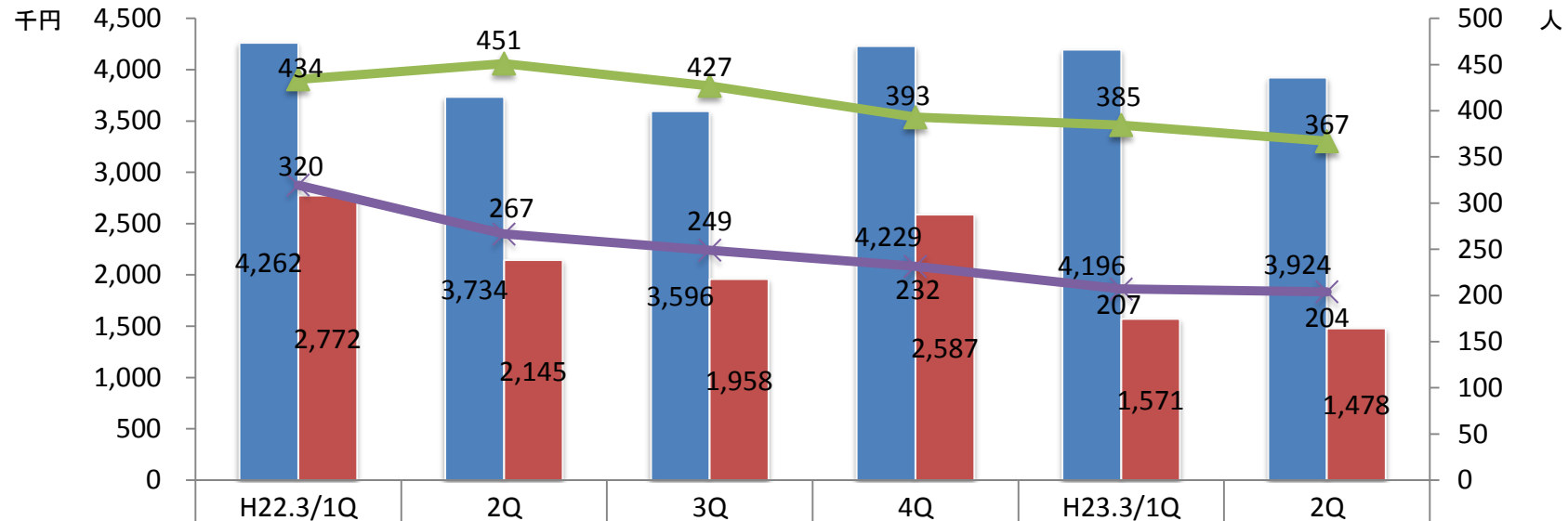
百万円



■ その他事業子会社(売却)	326	218	9	10		
■ 経営支援サービス(撤退)	503	172	57	203		
■ IT支援	382	399	430	395	325	300
■ ITパッケージ	1,850	1,684	1,535	1,662	1,613	1,440

サービス別売上高構成(四半期推移)コメント

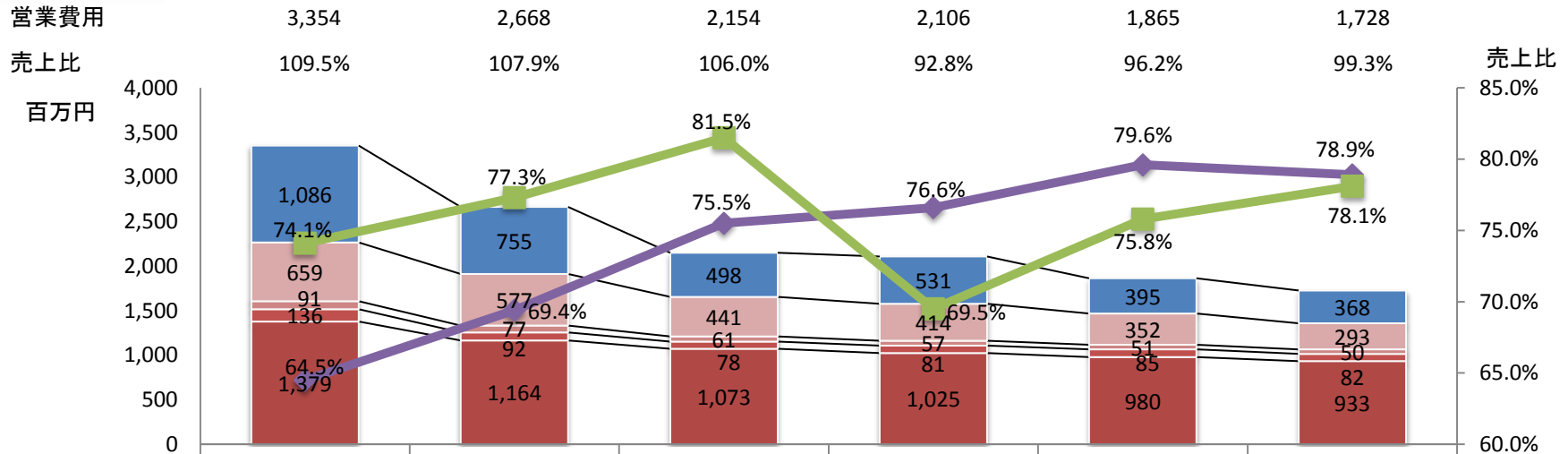
- » ITパッケージは、小企業の景況感が依然として弱含んで推移していること等が影響したことにより、第1四半期比10.7%減少
- » IT支援は、より利益率の高い商材・サービスへの絞込みを実施したことにより、第1四半期比7.5%減少



ITパッケージ	4,262	3,734	3,596	4,229	4,196	3,924
I T 支援	2,772	2,145	1,958	2,587	1,571	1,478
ITパッケージ要員数	434	451	427	393	385	367
I T 支援要員数	320	267	249	232	207	204

営業生産性推移コメント

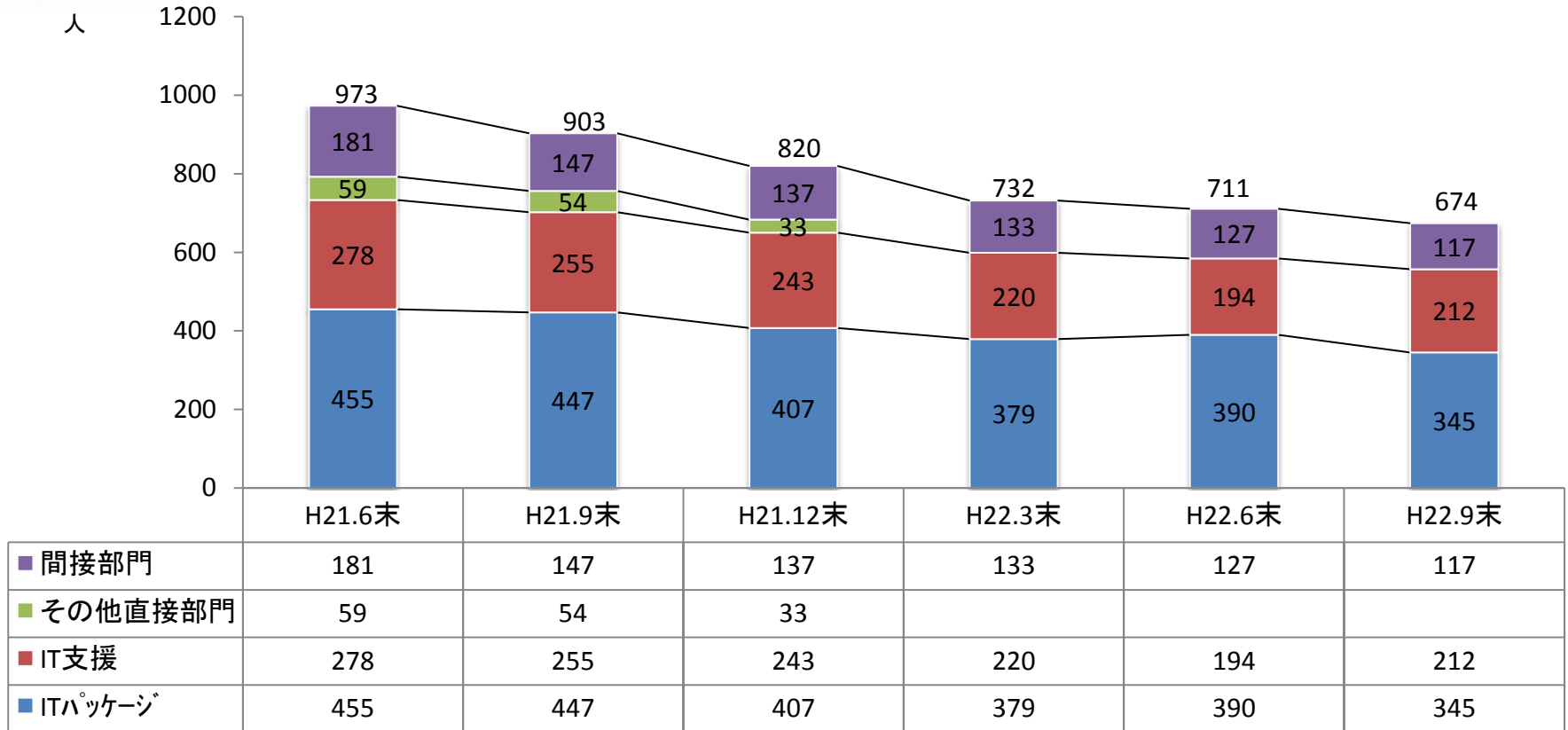
- » ITパッケージ、IT支援ともに、売上高が第1四半期と比較して減少している状況から、営業生産性も低下しているが、前年同期と比較すると改善傾向



	H22.3/1Q	2Q	3Q	4Q	H23.3/1Q	2Q
売上原価	1,086	755	498	531	395	368
その他販管費	659	577	441	414	352	293
旅費交通費	91	77	61	57	51	50
地代家賃	136	92	78	81	85	82
人件費	1,379	1,164	1,073	1,025	980	933
粗利率	64.5%	69.4%	75.5%	76.6%	79.6%	78.9%
販管費率	74.1%	77.3%	81.5%	69.5%	75.8%	78.1%

営業費用(売上原価+販管費)四半期推移 コメント

- » 組織規模の適正化の推進、全社的なローコスト・オペレーションの徹底により、販管費は第1四半期比7.5%減少し、営業費用も第1四半期比7.3%減少



従業員数推移 コメント

» 組織規模の適正化の推進により、従業員数は減少傾向にて推移

【単位:百万円】	H22.3末	構成比	H22.9末	構成比	対前期末 増減率	対前期末 差額
流動資産 合計	3,001	64.2%	3,736	74.6%	+24.5%	+734
現金及び預金	2,121	45.4%	3,076	61.4%	+45.0%	+954
その他	880	18.8%	660	13.2%	△25.0%	△220
固定資産 合計	1,672	35.8%	1,269	25.4%	△24.1%	△402
有形固定資産	198	4.2%	177	3.5%	△10.5%	△20
無形固定資産	542	11.6%	502	10.0%	△7.5%	△40
投資その他の資産	931	19.9%	590	11.8%	△36.6%	△340
資産 合計	4,674	100.0%	5,006	100.0%	+7.1%	+332

貸借対照表(資産の部) コメント

- » 流動資産は、第三者割当増資の払込を受けたこと等により現金及び預金が増加し、前期末比24.5%増加
- » 固定資産は、旧金融サービス事業の債権回収等により、破産更正債権等が減少したことに伴い、投資その他の資産が減少し、前期末比24.1%減少

【単位:百万円】	H22.3末	構成比	H22.9末	構成比	対前期末 増減率	対前期末 差額
流動負債 合計	1,999	42.8%	1,299	26.0%	△35.0%	△700
短期借入金	500	10.7%	—	—	—	△500
未払金	697	14.9%	515	10.3%	△26.2%	△182
その他	801	17.1%	784	15.7%	△2.2%	△17
固定負債 合計	18	0.4%	9	0.2%	△49.0%	△8
負債 合計	2,017	43.2%	1,308	26.1%	△35.1%	△708
資本金	7,744	165.7%	8,151	162.8%	+5.3%	+407
資本準備金	2,141	45.8%	2,548	50.9%	+19.0%	+407
純資産 合計	2,656	56.8%	3,697	73.9%	+39.2%	+1,041
負債・純資産 合計	4,674	100.0%	5,006	100.0%	+7.1%	+332

貸借対照表(負債・純資産の部) コメント

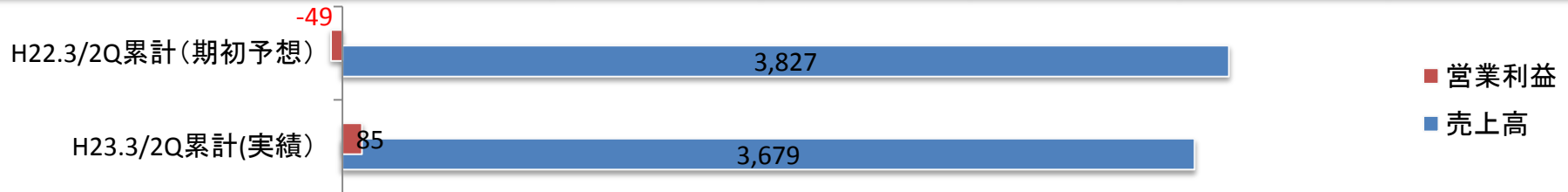
- » 負債は、借入金の返済による短期借入金の減少、仕入債務の減少等による未払金の減少等により、前期末比35.1%減少
- » 純資産は、第三者割当増資の払込を受け、資本金および資本準備金が増加したこと等により、前期末比39.2%増加

【単位:百万円】	H22.3 2Q累計	H23.3 2Q累計	(参考) H22.3 4Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	△142	649	229
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,397	△3	1,653
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,586	314	△3,179
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△1,332	959	△1,296
現金及び現金同等物の期末残高	2,079	3,072	2,112

キャッシュ・フロー コメント

- » 営業CFの増加の要因は、貸倒引当金及び未払金減少等により減少した一方で、税金等調整前四半期純利益が黒字となったことに加え、破産更正債権等の減少等により増加
- » 投資CFの減少の主な要因は、投資有価証券の売却による収入、貸付金回収による収入等により増加した一方で、有形固定資産の取得による支出、無形固定資産の取得による支出等により減少
- » 財務CFの増加の主な要因は、短期借入金の返済による支出等により減少した一方で、株式の発行による収入等により増加

【単位:百万円】	H23.3 2Q累計 (期初予想) ※H22.5.14公表	売上比	H23.3 2Q累計 (実績)	売上比	対期初予想 達成率	対期初予想 差額
売上高	3,827	100.0%	3,679	100.0%	96.1%	△147
売上原価	812	21.2%	763	20.8%	94.1%	△48
売上総利益	3,015	78.8%	2,915	79.2%	96.7%	△99
販管費	3,065	80.1%	2,830	76.9%	92.3%	△235
営業利益(△損失)	△49	△1.3%	85	2.3%	—	+135
経常利益(△損失)	△48	△1.3%	102	2.8%	—	+151
四半期純利益(△純損失)	△97	△2.6%	221	6.0%	—	+318



損益計算書(期初予想比較) コメント

- » 期初予想に対し、売上高は未達となったが、販管費の適正化等により、営業利益・経常利益は上方修正となり、また、貸倒引当金の戻入を実施することによる特別利益を計上したことに伴い、四半期純利益は大幅に黒字化

【単位:百万円】	H23.3通期 (期初予想) ※H22.5.14公表	売上比	H23.3通期 (修正予想) ※H22.10.19公表	売上比	対期初予想 増減率
売上高	7,646	100.0%	7,160	100.0%	△6.4%
売上原価	1,610	21.1%	1,496	20.9%	△7.1%
売上総利益	6,035	78.9%	5,664	79.1%	△6.1%
販管費	5,984	78.3%	5,613	78.4%	△6.2%
営業利益(△損失)	50	0.7%	50	0.7%	0.0%
経常利益(△損失)	65	0.9%	65	0.9%	0.0%
当期純利益(△純損失)	0	0.0%	223	3.1%	—

平成23年3月期 業績予想(通期) コメント

- » 売上高は、小企業の業況が不透明であることから、ITパッケージの収入を保守的に見積もった結果、期初予算に対して下方修正
- » 下半期においても引続き販管費の圧縮を進めていくことにより、販管費は減少の見通しであり、営業利益と経常利益は期初予算と同水準に据置き
- » 当期純利益は、上期において、貸倒引当金の戻入を実施することによる特別利益を計上したことに伴い、期初予想に対して上方修正

■通期業績予想達成のための下期施策

平成23年3月期の通期業績予想を達成させるために、
特に重要となる下期の取組みとしては、以下2点にポイントを絞り注力

ITパッケージ営業の営業活動量の最大化

更なる販売管理費適正化の推進

■来期に向けての取組み

「次世代コア商材の開発」は順調に進捗



補足資料

平成22年5月14日に開示いたしました平成23年3月期の連結業績予想につきましては、平成22年10月19日に業績予想の修正を公表しております。



業績及び経営指標の推移



Small Business Relationship

私たちは、小企業を活性化するエンジンとなります。

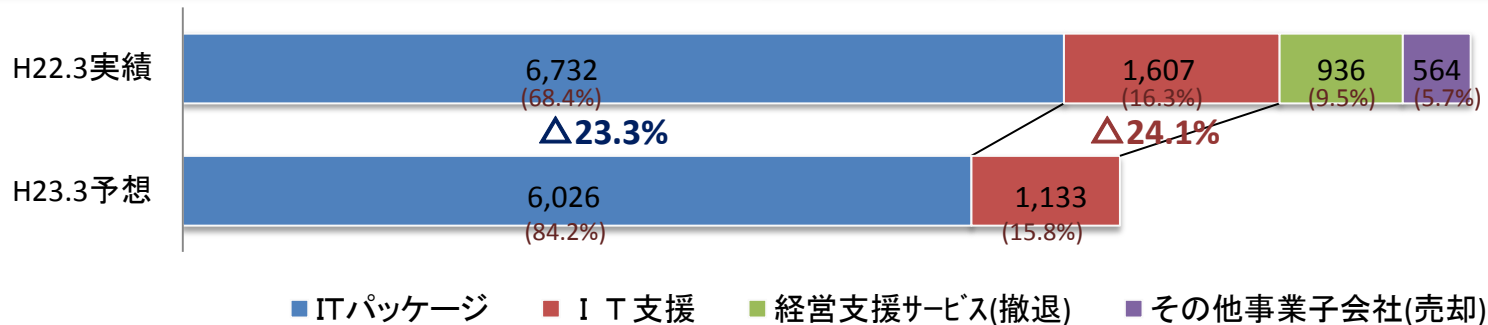
【単位:百万円】	H18.3 (実績)	H19.3 (実績)	H20.3 (実績)	H21.3 (実績)	H22.3 (実績)	H23.3 (予想)
売上高	20,329	22,974	17,957	18,420	9,840	7,160
営業利益	4,267	941	△740	△897	△447	50
当期純利益	2,398	△815	△6,437	△9,547	△958	223
営業活動におけるキャッシュフロー	2,734	△3,208	△1,583	△13	229	N/D
現金及び現金同等物の期末残高	5,360	5,756	4,521	3,411	2,112	N/D
純資産	11,242	20,112	13,346	3,594	2,656	3,697
流動比率	101.9%	325.8%	207.8%	75.7%	150.4%	287.6%
有利子負債	5,249	287	1,723	3,720	500	0
グループ会社合計	10社	15社	16社	11社	2社	2社
従業員数	1,285人	1,636人	1,364人	1,074人	732人	639人

【単位:百万円】	H22.3通期 (実績)	売上比	H23.3通期 (予想) ※H22.10.19公表	売上比	対前期 増減率
売上高	9,840	100.0%	7,160	100.0%	△27.2%
売上原価	2,872	29.2%	1,496	20.9%	△47.9%
売上総利益	6,968	70.8%	5,664	79.1%	△18.7%
販管費	7,415	75.3%	5,613	78.4%	△24.3%
営業利益(△損失)	△447	△4.5%	50	0.7%	—
経常利益(△損失)	△414	△4.2%	65	0.9%	—
当期純利益(△純損失)	△958	△9.7%	223	3.1%	—
(参考)継続サービス売上高	8,380	85.2%	7,160	100.0%	△14.6%

平成23年3月期 業績予想(通期) コメント

- » 売上高は、前期撤退した経営支援サービス、株式売却したグループ子会社分の減少に加え、経済状況を鑑み、既存サービスの受注を保守的に見積もった結果、対前期比27.2%減少の見通し
- » 前期より「本業回帰」の方針を打出し、利益率の高いITパッケージの売上高構成比が向上したことで売上総利益率が向上することに加え、前期取組んだ販管費抑制の効果が年間を通じて寄与してくることから、販管費は対前期比24.3%減少の見通しであり、営業利益が黒字転換の見通し
- » また、当期純利益も223百万円と累積赤字に歯止めがかかる見通し

【単位:百万円】	H22.3 (実績)	構成比	H23.3 (予想)	構成比	対前期 増減率
ITパッケージ	6,732	68.4%	6,026	84.2%	△10.5%
IT支援	1,607	16.3%	1,133	15.8%	△29.5%
継続サービス計	8,339	84.7%	7,160	100.0%	△14.1%
経営支援サービス(撤退)	936	9.5%	—	—	—
その他事業子会社(売却)	564	5.7%	—	—	—
非継続サービス計	1,500	15.3%	7,160	100.0%	△100.0%
売上高	9,840	100.0%	7,160	100.0%	△27.2%



※1:ITパッケージは、ITパッケージ及びカスタマーサポート(前期は経営支援サービス)を示します。

※2:IT支援は、ヤフー商材、WEB広告、WEB制作及びその他IT支援(全て前期は経営支援サービス)を示します。

※3:経営支援サービス(撤退)は、開業支援サービス、金融支援サービス、人材支援サービス及び通信機器等の撤退サービスを示します。

※4:その他事業子会社は、関連会社のうち株式売却等により連結子会社から除外された会社分の売上を示します。

事業テーマ

- 利益体質への転換に向けた事業構造の改革

BPRの推進による生産性の追及

- ITパッケージ営業における営業スキルの底上げ
- アポイント活動の業務プロセスの再構築
- 契約プロセスの一元管理体制の確立

ストック型ビジネスへの転換に向けた次世代コア商材の開発

ローコスト・オペレーションの継続実施

経営テーマ

- 内部管理体制の更なる強化

コーポレート・ガバナンスの強化

再発防止策の継続実施

開示書類に関する法令遵守体制の整備



株主構成



Small Business Relationship

私たちは、小企業を活性化するエンジンとなります。

株主セグメント	平成21年9月末現在				平成22年3月末現在				平成22年9月末現在			
	株主数 (人)	構成比 (%)	株式数 (株)	構成比 (%)	株主数 (人)	構成比 (%)	株式数 (株)	構成比 (%)	株主数 (人)	構成比 (%)	株式数 (株)	構成比 (%)
政府及び地方公共団体	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
銀行・信託銀行	1	0.01	70	0.01	1	0.01	74	0.01	0	0.00	0	0.00
生保・損保会社	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
その他金融機関	2	0.02	21,167	4.10	2	0.02	18,479	3.58	2	0.02	8,508	1.09
証券会社	15	0.13	3,171	0.61	12	0.11	3,754	0.73	15	0.14	37,157	4.78
その他法人	107	0.94	143,769	27.85	96	0.88	116,142	22.50	93	0.88	338,491	43.55
外国法人等	30	0.26	3,897	0.76	29	0.27	1,903	0.37	25	0.24	1,516	0.20
個人・その他	11,197	98.63	343,332	66.52	10,755	98.71	375,054	72.66	10,392	98.71	390,800	50.28
自己株式	1	0.01	748	0.14	1	0.01	748	0.14	1	0.01	748	0.10
合計	11,353	100.00	516,164	100.00	10,896	100.00	516,154	100.00	10,528	100.00	777,220	100.00

大株主	10	0.09	278,335	53.92	10	0.09	252,724	48.96	10	0.09	476,813	61.35
浮動株式	11,348	99.96	328,419	63.63	10,890	99.94	354,042	68.59	10,523	99.95	612,336	78.79
特定株	13	0.11	279,163	54.09	14	0.13	253,652	49.14	14	0.13	477,675	61.46

※浮動株式 役員持株、主要株主及び自己株式を除いた株主数及び株式数
 ※特定株 大株主、役員持株及び自己株式を合計した株主数及び株式数

当社は平成22年6月25日付にて、株式会社光通信及び光通信グループ会社3社に対して第三者割当増資による新株式を発行したことに伴い、発行済株式数は777,220株となっております。



お問い合わせ

株式会社SBR(エスピーアール) 総合企画部(IR担当)

Tel 03-5733-4492

Mail ir@sbr-inc.co.jp

IRインフォメーション

SBR IRページ <http://www.sbr-inc.co.jp/investor/>

本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手した情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別な事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果が生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられる情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製、または転送等を行わないようお願いいたします。